

日 時：平成 26 年 6 月 30 日（月）18 時 30 分 ～20 時

場 所：中佐渡会館

対象町会：中佐渡、長田

参加者：13 名

内 容
<p>○歩道と街灯について</p> <p>（市民からの要望・質問）</p> <ul style="list-style-type: none">・街灯が歩道側ではなく反対側についているので、子供たちが歩道を歩かない。歩道のない側を歩くので特に夜は危険である。・長田町会も歩道がなく、危険だと感じていた。線を引くなどの対応はできないものかと思っていた。高齢者も多く危険である。・八幡崎から日沼に行く道路の街灯が一番よくない。田の中に電柱が立っている状況であり、歩道を全く照らしていない。これは街灯の問題ではなく電柱の問題であるので難しいと思うが、角度を調整するなどしてなんとかしていただきたい。 <p>（市の回答）</p> <ul style="list-style-type: none">・街灯の問題は、取り付ける柱があれば直せるのだが、どうしてこのようになったものか。・歩道や街灯については、調査して進めていきたい。
<p>○農村公園について</p> <p>（市民からの要望・質問）</p> <ul style="list-style-type: none">・農村公園の桜の木が枯れてしまっており伐採をお願いしたい。また、物置小屋の屋根についても修繕をお願いしたい。・この件については昨年 9 月ころに市にお願いしており、「市でやるのでもうちょっと待ってください」という回答を得ているが、まだやっていないのでまた聞いてみた。・市の方から町会にお願いしてくれれば町会でやれることもある。行政がやるというのなら、いつやるのかも示してほしい。できないのなら町会に回してくれればいい。 <p>（市の回答）</p> <ul style="list-style-type: none">・確認し、早めにやるように指示したい。自分たちでできるところはやってほしいと思っている。経費は市が出すので。ただ、ケガの心配もあるが、地域と市が連携を取って地域でやった方が早いこともある。こういった意識をもってまちづくりをすすめたいと思っている。
<p>○カラス対策について</p> <p>（市民からの要望・質問）</p> <p>秋になると畑のまわりにたくさんカラスがくる。特に最近カラスの数が増えたような気</p>

がするが、いい対策はないか。

(市の回答)

- ・カラス対策はなかなか簡単にいかないだろう。追い払っても違う場所に行くだけだし、罾を仕掛けても一度かかればあとはかからない。
- ・以前、農林課で一度罾を仕掛け、何羽か捕獲したことがある。

○庁舎の空きスペースの活用について

(市民からの要望・質問)

庁舎に空きスペースが目立つように感じている。貸し出すなど有効活用はできないか。

(市の回答)

- ・全庁的に会議室は不足しており、常時あいているという所はない。
- ・合併して9年が経過し、職員も100人以上減らした。碓ヶ関の支所には11人しかいない。議会のスペースなどは空いているところもあり、その活用は考えられないわけではないが、決して余ってしまっているわけではない。

○空き家について

(市民からの要望・質問)

町会内に空き家が2軒ある。もしかしたら他にもあるかもしれない。町会で草刈りや立木の伐採をしようと話をしている。行政でも頭を悩ませていることと思うが何か対策はあるか。また、持ち主のわからない建物の固定資産税はどうなるのか。

空き家の固定資産税については、差し押さえをかけるなどし、工夫して回収に努めてほしい。

(市の回答)

- ・尾上地域だけでも88の空き家を確認している。碓ヶ関に行くともっと多い。空き家対策の条例を今年度中に作るため、現在準備を進めている。条例などを作っても個人の財産であることから行政が勝手に処分できないし、処分したとしても経費を払ってもらえるかどうかの問題もある。
- ・古くなる前にリフォームして誰かが使うようになるのが一番いいのだが。
- ・解体費用も高額である。
- ・空き家であっても固定資産税は、所有者を調べ、住所地に納付書を送っている。

○防雪柵について

(市民からの要望・質問)

中佐渡から平賀に向かう通りの防雪柵について、活用しているところを見たことがない。使わないのであれば移設するなどの予定はないのか。

(市の回答)

- ・平成26年度は活用することとして予算を措置している。

○農村公園の草の処分について

(市民からの要望・質問)

農村公園の草について、刈った草を燃やしていいものか。廃棄物として処理のルールなどがあるものか。

(市の回答)

- ・確認してから回答します。(農村公園の所管課である農林課へ回答を依頼)
 - ・刈った草を燃やすのは稲わらのように問題になると思うので、現状では積み上げて堆肥にするなどしかないかもしれない。
- ※農林課へ回答結果を確認
- ・量によっては刈りっぱなしでも大丈夫だと思うが、気になるのであれば燃やせるごみに出してほしいと回答すること。

○除雪について

(市民からの要望・質問)

当町会は高齢者が多く、除雪機が置いて行った雪の塊など、町会の役員がかたづけているが、もう少し邪魔にならない方法で除雪するよう指導できないか。また、集落の北側の歩道に雪を高く積み上げていくので、通学する子供たちが見えなくて危ないと感じるので、高く積み上げないようにお願いしたい。弘前市では、ブルドーザのバケットにストッパーを付ける取組みもあるようだし、また、排雪も行っていると聞いている。

家の裏の空き地にブルドーザが雪を置いていくが、カーブになっているため家のそばに雪を置いていかれることもある。注意してほしい。

(市の回答)

- ・弘前市の排雪は、市街地が多く雪を捨てる場所がないので、やらざるを得ない状況であるのだと思う。平川市の場合は弘前市と比較して空き地も多いことから、排雪の回数は少ないと思う。市民のみなさまにはご苦勞をおかけしている。
- ・当市では高齢者の一人暮らしが多いが、すべて行政で除排雪することはできないので、地域で助け合っていたらいいと思っている。
- ・今後も除雪のやり方については市としても指導していく。

○融雪溝の整備について

(市民からの要望・質問)

融雪溝を整備してもらえないか。

(市の回答)

- ・融雪溝については「水源が確保できること」「その水が流れ出るところがあること」「受益者の方に管理をしていただくこと」などの条件がそろわないと整備は難しい。水をポンプアップしており電気代などもかかっているところもある。どうしても必要ならば水の問題、電気料の問題を地域の中で話し合ってもらえることも必要である。

○循環バスについて

(市民からの要望・質問)

先日議会だよりが届いて、気になったことを質問したい。

循環バスは現在、「平川市循環バス」という名前でありながら、実態は平賀地域しか運行していない。尾上地域でも運行したことはあるがやめたと記憶している。理由は利用率が悪いためと聞いた。では平賀地域の利用率はどうか。不公平ではないか。

(市の回答)

- ・循環バスの運営する上の1つの目安として、収支率を25%と設定している。4分の1はお客様からもらい、残り4分の3は市が払うということである。
- ・唐竹広船線、新屋尾崎線については収支率30%を超えているが、杉館・松崎線、岩館・大坊線は超えておらず、日曜日、祝日は廃止し平日のみの運行としている。
- ・日沼線、金屋線についてはさらにその半分以下であったため廃止したものである。
- ・現在は車で移動する方が多いので、バスの利用者が少ないのが実態だが、高齢者の移動手段の確保は必要である。

○給食費の未払いについて

(市民からの要望・質問)

給食費の未払いが多いと聞いている。どういう対応をしているか。

(市の回答)

- ・学校へは、「連絡帳に記入する」「電話する」などして滞納の解消に努めてほしいとお願いしている。また、滞納者の児童手当は口座振込とせずに窓口払いとしている。受け取り日に窓口を担当者を外向かせ、納付のお願いをしている。その他、毎年4月5月には夜間徴収なども行っている。
- ・4月に消費税が上がったが、市では給食費を据え置いている。消費税増分の300万円ほどを市が負担している。

○財産区について

(市民からの要望・質問)

尾上地域にもかつては財産区があったが、集落に移管されたと記憶している。にもかかわらずまだ平賀地域は財産区が残っているのか。尾上は行政の指示でなくしたのに平賀地域だけ残っているのは不公平ではないか。

(市の回答)

- ・財産区は独自に議会を持って運営すると100万円くらいかかる。山は「財産管理会」などで管理し、議会を市議会に任せているところが多い。
- ・市から地域におろしたのは、お金の管理の話である。当時、町が町会（財産管理会）のお金を管理していた時期があり、公金ではないものを町が管理している状態を解消するために町会に返したと聞いている。
- ・尾上地域は財産区を解散して、山は町の所有となり、山の管理は町が事業主体となってやっている。ただし、木を切って売った場合は、従来から決めている分取割合によって町会にお金が入るようになっていると聞いている。

○市民運動会について

(市民からの要望・質問)

昨年あたりから市民運動会をやらなくなったが、全体としてではなく各地域でやってはどうか。尾上町時代は1つの町会をチームとしてやり、終われば集会所で飲んだりして親睦の場があった。今はそういった機会が夏祭りしかなく、何らかの形でやってはどうか。

(市の回答)

- ・運動会に代わるものということだが、今年は運動会の計画はない。ただ、市民が一堂に集まって交流する機会はあるといいのではないかと考える考え方はある。
- ・実際に運動会を小学校区のチームでやってみて、選手を集めるのが大変だという声などがあり、種目を限定したスポーツ大会など、なんとか工夫していけないか考えさせていただいているところである。
- ・運動会には地域のいろいろな思いを感じている。1つになることの機会を増やしていきたいと思う。考え方はいろいろだと思うが、市民が1つになる場所が必要だと思うので作っていきたいと思う。種目別でやる方法など、いろいろ考えていきたい。合併して9年たつが、1つの市になったとはいっても、それぞれの地域を思う気持ちがあると思う。こういう機会をもちながら、お互いに理解し合って地域づくりを進めていきたいと思っている。

○バイオマス発電所について

(市民からの要望・質問)

バイオマス発電所建設にあたり、事業者に対し、旧尾上町の不燃物処理上跡地を平成2

9年まで貸す契約をしていると聞いたが、これ以降はどうなるのか。

(市の回答)

- ・土地を貸すのは5年が最長となっているため5年で区切っている。
- ・価格は評価額の4.2%と決めており、5年後に評価額がどうなっているかで貸付け価格は変わることになる。

○ワイン特区について

(市民からの要望・質問)

弘前市をはじめ、各地でワイン特区の認定を受け、シードル、ワインなど作っている。平川市は弘前市に引けを取らない品質のよい果樹の産地であるにもかかわらず、うまく収入に結び付けられていない感じがしている。例えば1箱500円の加工りんごをワインにした場合は1万円～1万5千円になる。ワイン特区に認定された場合、最低製造基準が6000リットルから2000リットルとなり大きく規制が緩和される。あまりお金をかけられない小さな団体でも高い利益を上げられると思う。6次産業化の活性化、平川市の活性化にもつながると思うので、ワイン特区の申請をしてみてもどうか。

(市の回答)

- ・作ったものを生で売ることが一番なのだが、どうしても「スソモノ」が出てくる。そのスソモノをいかに加工して販売まで結び付けるかが農家の収益を上げるために非常に大切であるため、県でも市でも6次産業化を支援しているところである。
- ・平川市では、JAと連携して桃を売り出している。桃のスソモノで作った桃酢や、お菓子を作るなどの取組を進めている。
- ・6次産業化はぜひとも進めていかなければならないので、特区の申請については、調べた上で検討させていただきたい。経済部より回答させます。

○下水道の加入率について

(市民からの要望・質問)

下水道の加入率はどの程度か。また、未加入者に対してはどのような指導をしているか。

(市の回答)

- ・古いデータだが、公共下水道は70%くらい、農業集落排水はもっと低かった記憶がある。
- ・以前、未加入全世帯に対して理由を聞いて回ったことがあるが、「高齢者世帯のため、今から下水道の工事に高額なお金を払えない」というものが多かった。
- ・事業を始める時に、その集落で一定割合の加入が確約されれば事業を行うこととしているはずである。当初は加入を確約しても、その後の事情で加入できないケースなどもあり、下水道の担当者が加入のお願いに回っている状態である。